

武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備委員会本部会の概要

回数（作成課）	第5回本部会（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室）
日時	令和7年10月30日（木） 17時30分～19時45分
場所	武蔵浦和コミュニティセンター 第8・9集会室
出席者	内谷中学校長、浦和別所小学校長、西浦和小学校長、沼影小学校長 家庭からの参加者2名 地域からの参加者5名 日本体育大学教授（学識経験者） 教育長、学校教育部長、生涯学習部長、学校教育部次長、武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長、おいしい給食サポート課長、生涯学習振興課長、教育課程指導課副参事、生涯学習振興課副参事
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について 2 各ワーキンググループからの報告 <ol style="list-style-type: none"> （1）給食室運営より（今後の見通しについて） （2）学校地域協働より（関係団体のあり方について） （3）カリキュラムより（制服・金管バンドについて） （4）校名・移行イベントより（開校式、校歌・校章について） 3 令和8・9年度開校準備委員会組織と参加者構成（案）について 4 意見交換（校名の絞り込みについて） 5 その他

○教育長挨拶

開校準備委員会本部会は今回で5回目の開催となり、昨年度の立ち上げ以降、地域・保護者の皆様の温かい支援と貴重なご意見を受けながら、「地域とともにある学校づくり」を一步一步進められていることへの感謝を伝えた。入札不調についての進捗報告として、現在、事業者にアンケート調査を実施し、今後他局とも連携し、更なる対策を検討していく方針であることを伝えた。

1 武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校の「未来の姿」について

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

- ・ 前回の本部会の意見交換を踏まえ、本義務教育学校の「未来の姿」の柱（「9年間の一貫した教育活動を通して、子どもが中心となり、すくすく伸びやかに育つ学校」「9年間ならではのたくさんの繋がりの中で、多様な価値観をもつ一人ひとりの可能性が伸び、広がる学校」「多様な人材が交流し、地域から愛され、繋がりあふれる地域の拠点となる学校」）を報告し、全体で共有した。
- ・ これらの「未来の姿」の柱や「4つの視点に分けた『未来の姿』」は、今後、本義務教育学校の目指す姿としての拠り所、教育活動や地域との関わりの中で立ち返るべき指針として、開校準備委員会での意見交換等において、テーマや内容に応じて柔軟に活用していくと説明した。

2 各ワーキンググループからの報告

（1）給食室運営より（今後の見通しについて）

（おいしい給食サポート課長からの説明）

これまでのワーキンググループの活動報告として、給食提供時間、給食提供回数、献立の統一などの意見交換の内容について説明した。給食提供時間については、小学校と中学校で調理工程が異なるため、提供時間に時間差を設けること、給食提供回数については、前期課程は小学校、後期課程は中学校に合わせることに、献立の統一については、義務教育9年間の連続性を重視し、3校舎で統一献立を採用する方向であることを報告した。

(参加者からの主な質問・意見)

○3校舎同時に統一献立をするとすると、多くの食材が必要になるが、地域の業者から調達できるのか。

→おいしい給食サポート課長からの回答

各校の栄養教諭等との意見交換の中では、食材の確保に不安はないという声もあったが、今後統一献立を考える上で課題を整理していく必要がある。業者については、現在の各校が利用している業者も念頭に置きつつ検討していく。

○業者の選定は、専門性が高いので栄養職員が中心になると思うが、どのような手続きを行うのか。

→おいしい給食サポート課長からの回答

業者の選定は校長、栄養職員、PTAなどが参加する校内の選定委員会で行い、最終的な決裁は校長が行う。契約については当課が担当している。

(2) 学校地域協働より (関係団体のあり方について)

(生涯学習振興課副参事からの説明)

これまでのワーキンググループの活動報告として、学校運営協議会、PTA、チャレンジスクール、スクールサポートネットワークそれぞれの主な意見交換の内容について説明した。学校運営協議会については、義務教育学校として一つの学校運営協議会を設置し、校舎ごとに下部組織を設け、情報共有・意見反映を行う体制を検討していくこと、PTAについては、学校として一つの大きなPTA組織を設置し、校舎ごとの組織を併設し、実働性を確保していくこと、チャレンジスクールについては、学校として一つの実行委員会本部を設置し、校舎ごとに分科会を設けること、スクールサポートネットワークについては、各校の既存ネットワークを継続し、共有会議を定期開催するといった意見交換があったことを報告した。

(参加者からの主な質問・意見)

○青少年育成地区会について、校舎ごとに分かれるのか、それとも一緒になるのか、何か意見交換はあったか。

→生涯学習振興課副参事からの回答

青少年育成地区会については、ワーキンググループの中でも話題が上がっている。青少年育成地区会は独立した団体であるため、ワーキンググループでの意見交換の内容を各団体に持ち帰っていただき、今後の活動のあり方をそれぞれ自主的に検討していただくものと考えている。

○今は3校それぞれにPTAがあり、3校それぞれのPTAで管理・運営を行っている。これを解散して新しく作るのか、それとも合併するのか。

→生涯学習振興課副参事からの回答

今はまだ課題を洗い出している段階で、具体的な方針は決まっていない。ご意見を踏まえて、

今後も意見交換を進めていきたい。

○自身の学校では、今年度から完全ボランティア制に移行した。多くの人に参加していただいている。デジタル化も進めていて、ほぼリモートで運営できている。義務教育学校のPTA運営にもボランティア制やリモート化を取り入れると良いと思う。

(3) カリキュラムより(制服・金管バンドについて)

(教育課程指導課副参事からの説明)

これまでのワーキンググループの活動報告として、カリキュラムワーキンググループ全体の進め方や調査研究事項に加え、制服の有無やあり方について、金管バンドの入部学年や校舎内、校舎間の交流についての意見交換の内容について説明した。

制服の有無やあり方については、子ども・保護者の意見を広く聴く機会を設けること、必要とされた場合には、デザイン、価格、着用場面、対象学年、選択制の可否を考慮すること、不要とされた場合には、私服の基準を研究すること、金管バンドについては、5年生から入部可能とする方向で、7～9年生との活動機会を創出したり、下級生(4年生以下)との交流として演奏会・交流会等を実施したりしていくというワーキンググループとしての方向性がまとまったことを報告した。

(参加者からの主な質問・意見)

- 制服について、保護者の意見を聴くということだが、多くの意見を聴くことで、まとまらない可能性もあるためあらかじめ事務局で決めて提示してもよいのでは。
- 制服は費用もかかるため、他校や先行事例も参考にしながら、部活動のユニフォームや学用品も含めて、家庭にかかる負担について考えてほしい。
- 制服の有無について、当事者である子どもや保護者の声を丁寧に聴くことは大事だと思う。制服が有ること、無いことそれぞれにメリット、デメリットがあると思うため双方の意見を丁寧に汲み取ってほしい。
- 制服は有った方がよいと思う。集団の一体感もあるし、毎日服を選ぶ手間が省けるので、家庭の事情なども考えると、制服が有る方が家庭の負担が軽くなると思う。

(4) 校名・移行イベントより(開校式・校歌・校章について)

(武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明)

沼影校舎の各棟の呼称の仕方や、校歌・校章の決め方、閉校式・開校式のあり方について方向性を説明した。

(参加者からの主な質問・意見)

主な質問・意見なし

3 令和8・9年度開校準備委員会組織と参加者構成(案)について

(武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長補佐からの説明)

- ・開校準備委員会の設置経緯、現行の各ワーキンググループの活動状況について説明した。
- ・令和8・9年度の再編案(参加者構成、今後の活動見通し、公募チラシなど)について説明した。

(参加者からの主な質問・意見)

○現在の参加者の参加期間や構成員は開校が延期したことで変更があるのか。また、令和8～9年

度の参加者の推薦、公募の方法について教えてほしい。

→武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長補佐からの回答

現在の参加者の参加期間は変更なく令和7年度末までとなる。基本的に、次回も同じ方法で推薦、公募を行う予定である。

公募によって様々な思いや願いをもつ方々が参加していただくことで、活発な意見交換に繋がると考えている。

4 意見交換（校名の絞り込みについて）

（武蔵浦和駅周辺地区義務教育学校開校準備室長からの説明）

- ・校名・移行イベントワーキンググループで行った、校名案の絞り込みの経緯や、校名の絞り込みでの絞り込んだ校名案の選定理由について説明した。
- ・校名案絞り込みの進め方や、選定基準等について説明した。
- ・今回の本部会では、意見交換が終わらなかったため、次回も継続して扱うこととなった。今回の意見交換ではA～Cの各グループで自由に意見交換をし、次回の本部会で各グループの意見を共有し、本部会として校名案を5個に絞り込むこととしてご賛同いただいた。

（学識経験者からのコメント）

本日の校名に関する意見交換は、参加者の熱意と様々なアイデアに満ちていた。

教育とは、子どもたちが学びの中で価値を見出していく過程であり、常に価値の選択が伴う。本日も、給食、学校地域協働、カリキュラムといった各テーマにおいて、価値観の違いや思いのぶつかり合いが見られた。こうした議論の積み重ねこそが、学校づくりの本質であり、地域とともに歩む教育の姿を形づくるものである。

制服の事例として、過去に私が設置に関わった義務教育学校では、中学生（7～9年生）は制服とし、小学生（1～6年生）は成長の早さを考慮し私服とする、行事の際などは、一体感を保つため、共通のポロシャツを着用するという合意形成がなされた。

このように、価値がぶつかり合い、まとまっていくことで、柔軟かつ納得感のある制度設計が可能となる。制服のあり方や給食の献立、校名の選定など、具体的な事項においても本義務教育学校の「未来の姿」が判断の拠り所となるものである。また、意見交換を重ねていく中で「未来の姿」の3つの柱の意味が本部会、ワーキンググループの参加者に共有されて学校づくりにも繋がっていく。校名選定においても、「選定基準」や「未来の姿」に立ち返りながら、どのような思いや願いを込めるかを丁寧に意見交換することが重要だと思う。

次回本部会（令和8年1月）の、校名案の絞り込みでは、校名に込める思いや理念を意見交換し合う貴重な時間となることを期待している。

5 その他

連絡事項特になし